

# サッカーにおけるボール奪取後の攻撃の分類方法の提案と検討 -2012年 UEFA ヨーロッパ選手権における速攻とポゼッション攻撃に注目して-

田村達也<sup>1)</sup>, 堀野博幸<sup>2)</sup>, 土屋純<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 早稲田大学スポーツ科学研究科

<sup>2)</sup> 早稲田大学スポーツ科学学術院

キーワード: 攻撃, 速攻, 記述分析法, サッカー, パフォーマンス分析

## 抄 録

現代サッカーにおける攻撃は、「速攻」と「ポゼッション攻撃」に大別することができる。「速攻」あるいは「ポゼッション攻撃」についての定義は数多く存在するが、定性的観点によるものがほとんどである。そこで、本研究では 2012 年 UEFA ヨーロッパ選手権を対象に、ボール奪取後の攻撃を、「速攻」と「ポゼッション攻撃」に分類する定量的指標を提案することを目的とした。まず、ボール奪取後シュートに至ったプレーを抽出し、ボール奪取位置、ボール奪取時からシュートをした時までの時間(プレー時間)を視察により調べた。加えて、それらのプレーが「速攻」あるいは「ポゼッション攻撃」であるかを定性的に検討した。その結果、「速攻」ではボール奪取位置間(攻撃方向前方から 3 分割)において、プレー時間に有意差が認められた。このようにボール奪取位置を 3 エリアに分割することで、より精度の高い定量的指標を得ることが可能であることが示唆できた。また、各エリアでボール奪取した場合に非常に高い割合で「速攻」と判断されるプレーの目安時間も明らかになった。したがって、ボール奪取後の攻撃を分類する定量的指標になり得るものと考察された。

スポーツ科学研究, 12, 48-55, 2015年, 受付日:2014年10月29日, 受理日:2015年5月10日

連絡先: 田村達也 〒202-0021 東京都西東京市東伏見 2-7-5 早稲田大学体育教室棟 205

Tel & Fax: 042-461-1302, E-mail: a051627tatsu@fuji.waseda.jp